

表紙によせて

セッコク (*Dendrobium moniliforme*)

本州、四国、九州に分布し、スギなどの大木や岩場に着生する。草丈は 10cm から 20cm ほどで、岩に着生しているものは木に着生しているものより小型のことが多い。セッコクの名は岩に着生する様から石斛と名付けられたことに由来し、趣味家の間では、木に着生するセッコクを岩に着生するものと区別してモッコクと呼ぶこともある。

野生ランは環境の悪化のほか、盗掘などにより絶滅の危機に瀕しているものが多いが、木の高いところに着生しているセッコクは今でも比較的自生個体数が多く、東京都下の高尾山においても自生のセッコクを容易に観察することができる。

花は 5 月中旬から 6 月中旬にかけて、茎（偽球茎）の先端 4、5 節のところに 2 輪ずつ咲き、花色は淡いピンクから白色をしている。また、花には良い香りがあるので、花を鑑賞する機会があれば、是非、香りも楽しんでいただきたい。

このセッコク、江戸時代には長生草（大正以降、長生蘭と呼ばれる）として人気を博し、日本の野生ランの中では富貴蘭の名で親しまれたフウランと並んで、重要な古典園芸植物の一つとなっている。古典園芸植物としてのセッコクは江戸時代に人気のあった他の植物同様に、花よりも葉や茎の芸（色や形の変化）を楽しむ品種が中心で、茎の色が透明感のある黄色に変化する鉛矢（セッコクの茎は「矢」と呼ばれる）や白く透ける透け矢などの芸を持った品種が珍重された。しかし、近年では花を觀賞することを目的にした品種も作出され、栽培も容易であることから、愛好家が増えることを期待したい。